

1. 目的

公共交通空白地域等の移動手段確保のため、また、まちなかの回遊性向上のためにも、利用者の利便性向上を図る新しい移動手段の確保が重要である。

さらに、将来にわたって公共交通を維持していくため、持続可能なコミュニティ交通の実現に向けたサービス水準等の検討を行う。

例) ▼AIデマンドタクシー



▼グリーンスローモビリティ



▼ライドシェア

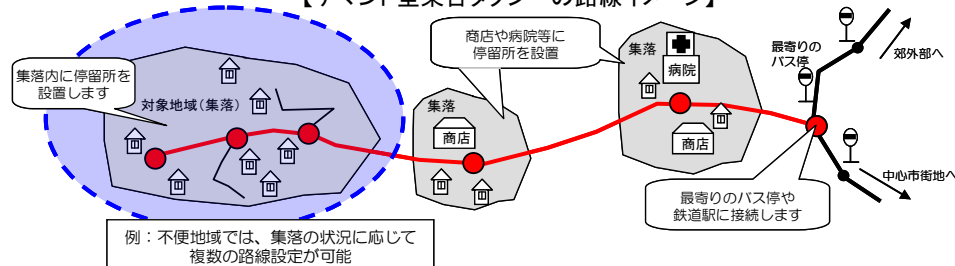


出所：株式会社パブリックテクノロジー
石川県「小松市ライドシェア」

2. 現状・課題

- 公共交通空白地域等において、デマンド型乗合タクシーを運行。線的な運行で利用対象者や行先が限られるなど利便性に課題があり、年間利用が300人に満たない路線は15路線（全21路線の約7割）

【デマンド型乗合タクシーの路線イメージ】



- 公共交通空白地域等を含む西南及び植木地域において、AIデマンドタクシーの本格運行を開始。既存のデマンド型乗合タクシーとの比較による利便性向上の状況等について、運行状況の分析による評価、検証が必要。
- 上通・下通エリアにおいて、グリーンスローモビリティの実証運行を実施。運行エリアやルート設定が原因で、熊本城エリアに比べ利用者が大きく低迷。
- 今後のタクシー運転士不足等により、コミュニティ交通の運行体制の維持が困難となる可能性。

持続可能なコミュニティ交通に向けた
サービス水準等の検討が必要

3. 今年度以降の取組

コミュニティ交通の導入地域（公共交通空白地域への対応等）や適正なサービス水準（乗降所等）、受益者（利用者、乗降所等）による負担等について、以下の取組等を通じて具体的な検討を行う。

■AIデマンドタクシー

西南及び植木地域での本格運行や子育て支援の実証運行の状況も踏まえ、適正なサービス水準等について検証を行う。

■グリーンスローモビリティ

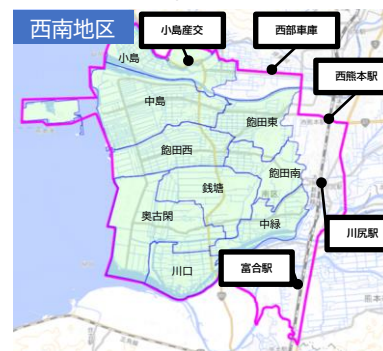
実証運行の課題等を整理し、導入目的（ターゲット）や運行エリア、ルート等を明確にしたうえで改めて実証運行を行い、本格運行に向けた検討を行う。

■ライドシェア

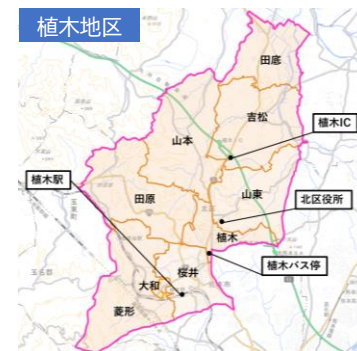
将来的なタクシー運転士不足等が見込まれる中、コミュニティ交通を持続可能なものにしていくため、ライドシェアについて研究を行う。

◇サービス水準等の事例（AIデマンドタクシー）

【導入地域及び乗降所設置数】



目的地停留所 84か所
住宅地停留所 259か所



目的地停留所 56か所
住宅地停留所 246か所

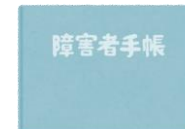
【利用料金】

大人：1日300円

おでかけICカード・障害者手帳・免許返納割引乗車証所持者、小学生以下のお子様：1日100円



おでかけICカード



障害者手帳・療育手帳



免許返納者割引乗車証
※運転経歴証明書も可